

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100019		
法人名	株式会社 SHINEI		
事業所名	かすみそうの家		
所在地	桑名市森忠1728-4		
自己評価作成日	令和2年 2月16日	評価結果市町提出日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の実践と今年度のかすみそうの家の目標として「元気に暮らす」をかかげ取り組んでいます。洗濯物を干す、たたむ、調理の手伝い掃除等や体を動かす、体操、車椅子の方は足こぎ自走や機器を使った足首の運動等に取り組んでいます。筋力低下の予防につながっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2490100019-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「元気に暮らす」を年目標に掲げ、調理の手伝いや簡単な清掃等の家事仕事や「先回りすぎない支援」による生活リハビリを行うことで成果が出ている。また、実際に夜間の避難訓練を行い、駐車場に避難後、車の中で待機して貰うなど避難後の安全にも配慮し工夫している。病気や加齢により馴染みの来訪は減減するが、年3回の家族参加の行事で家族間交流の機会を持つことで家族と繋げる努力をしており、気持ちの良い挨拶や訪問のし易さは家族にも好評である。ため口についても馴れ馴れしい接遇を防ぐ為に、「利用者(家人さん)は人生の先輩」と頭に据え、職員同士の会話でも禁止している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社		
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1		
訪問調査日	令和2年 3月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については代表自ら毎年研修を行い、正社員はもとより、今年は全体のパートミーティングを行い共有をし実践するよう努めている。	「元気に暮らす」という“年目標”を立て、生活リハビリや体操、屋外作業等、利用者が元気に暮らせる様な活動を工夫している。また全体のパートミーティングを就業時間内に行う事で、理念と目標の実践をホーム全体で進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との関わりは少ないが七和小学校の校長、教頭先生のお声かけから、生徒さんに招待状を持参して頂き運動会や音楽会に参加させて頂いた。	周りに民家は無く大きな道路の向かいの住宅地は自治会が違う為関りが薄かったが、地域の小学校や保育所からの招待で、運動会や音楽会、お年寄りとの交流会に参加でき、地域と交流することができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に向けた取り組みが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し行事や入居者の状況について報告している。参加者には話し合いだけでなく、レクレーションにも参加してもらい、施設への意見や感想を聞いている。	利用者家族を含む出席者にレクに参加して貰うことで、利用者や交流し日常の様子や状態を直に感じて貰い、和んだ雰囲気の中で意見や感想を運営に活かせるよう工夫している。	出席者数とメンバーの偏りは是正の為、市や市民センター長から地域の代表者(町内会役員、民生委員、老人会等)を紹介して貰い、参加を依頼して地域に密着した幅広い意見を得て更なるSC向上に生かされたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や管理者が介護認定の申請時に出向く際に関わりを持っている。又、市からの依頼でセミナーに参加し認知症の家族さんとの交流も出来た。	介護認定申請時等に出向き関わりを持っている。また運営推進会議に初めて参加する市の担当者にホームの役割等を伝えたり、市の依頼を受けて市主催のセミナーに参加したりと協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を行い、ミーティングや運営推進会議で報告をし意見なども伺っている。	「しない介護」は法人の方針で、ベッドを床にする等安全上の理由でも拘束をしなくて済む方法を検討し対応している。また、「言葉の拘束」に対しても留意し、スピーチロックにならない様現場でも理由付けをして指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に勉強会をし、虐待が起こらないようにスタッフが理解をしケアを行っている。ニュース等で取り上げられた時なども管理者の申し送り、ミーティングで話し合う機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業などを活用する支援等は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に入居者や家族にはホームの見学と面接をし、十分に契約内容について説明している、解約についても入居者、家族と相談して納得の上行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族等から苦情、意見があれば、申し送りをし解決するようにしている。家族等とも話しやすい関係を築き、来所時や行事の際に忌憚なく意見をだしてもらうように配慮している。	来所しやすい環境と要望や意見を言いやすい雰囲気	更には、年3回家族アンケートの中に、家族が聞き出した今の本人の暮らしの意向や家族の気づき点等の項目を策定し、家族だけが知りうる本人の意向等も、生活リハビリ活動や介護計画書に反映されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の業務の時だけでなく、個別での話し合いの機会を設けて職員の意見を聞いている。又、年1回自己評価を行い、代表者とマネージャーが職員の意見を聞いている。	業務時に限らず個別で意見や悩みを聞くようにし、意見や相談をし易い雰囲気を心掛けている。業務上の改善意見については、ミーティングで改善策を話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月に面談の上、契約を更新している。7月には自己評価を行い、職員の現状、状況の把握に努めている。職員や代表者の評価で表彰をしてモチベーションを高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時に職員向けの勉強会を行っている。研修に参加出来る機会もつづけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内にて相互訪問をし交流会を月二回催している。又、研修をしたり意見交換の場としている。他社の支援施設を訪問し空き、待ちの状況や意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず面談を行い、要望や不安な思いを聞き取り、安心してもらえる関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後、1ヶ月は細目に家族さんに本人さんの様子を報告し家族様の要望、依頼に対しては出来る限り対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接にて本人と家族が必要としている支援を確認し、サービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話や訴えなどから一人一人の思いや何に不安があり何に楽しみを感じているかを把握し個性を大切にしながら色々な思いを共有し支え合える関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から情報を提供してもらい、家族の意向を踏まえつつ、本人の暮らしやすい環境を作り、家族と共に支えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、行きつけの美容院へ行ったり、他の施設への交流会で馴染みの人と会ったりしてもらっている。	年三回の家族参加の行事や年賀状の支援で、家族や家と繋がり続ける支援をしている。直接の馴染みである職員との関係が途切れることで利用者に与えるダメージを鑑み、移動は極力少なくしている。またパートは異動させていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家人さん同士の関係を考慮し座席を決めている。時折席替えもしながら家人さん同士の関わりを大切に孤立しないような環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからも引き続き支援する旨を家族様に伝え関係が途切れぬようにしている。夫婦世帯で入居者が他界された場合は時々連絡を入れ安否確認をしている。包括へも連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で職員が気づいたことを基に担当が中心になり「その人を知る」を作成し本人の意見や要望をスタッフ間で共有するようにしている。	入浴時の寛いだ雰囲気での職員との1対1の会話を、意向把握の大切な機会とし、聞き出した意向や気づきを「その人を知る」に反映し、職員間で共有して介護計画に繋げている。細かな要望にはできる範囲(できない時は代償行動)で、一人ひとりの思いに応える努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から提供してもらう情報や入所時に作成している情報書を基に本人のこれまでの生活歴や暮らし方を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が一人一人の日々の様子を記録し特変、不眠等があった家人さんについては口頭で伝えると共にケアパットに入力し職員全員に周知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新前に担当の職員が「その人を知る」というシートに現在の状態を記入しケース会議で他の職員の意見や家族の要望も取り入れて作成している。	日誌や訪問診療の結果等、日々の記録から作成された「その人を知る」シートを元に、ケース会議で本人や家族の意向と現状のギャップを職員がグループ毎に話し合い、すり合わせながらケアプランに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員がケアパットに様子を入力し特に周知すべきことは申し送りをし又、申し送りノートにも記載する。ミーティング・ケース会議での共有をしケアにつなげる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家人さんの状態に変化があった時や、家族の要望があった時は随時、サービスの内容を変更し対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域のボランティアに訪問してもらい実演してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続してかかっている病院のかかりつけ医や協力医療機関など希望するところを選んでもらっている。連絡をとりながら家人さんの体調の変化に対応している。	希望の掛りつけ医に受診できている。家族同行時は、本人の状態や様子を記入した用紙を渡し、家族から受診結果を聞き取り記録され職員間で共有される。時々、管理者が同行説明し元々の掛りつけ医とも関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	家人さんの体調の変化があった時は看護師に相談し必要があれば、かかりつけ医に相談し受診や往診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは主治医や看護師と相談しながら連絡を取るようになっている。入院の際は3日に1回面会し状況の把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際、家族と看取りについて話し合いをしている。状態が悪化し、看取りの状態になった時は本人、家族の意向を尊重し、主治医を含めて話し合い対応し、状況により都度変る本人や家族の意向にも主治医、ご家族と共に話し合いを重ね対応している。	家族が、終末期に慌てることの無いよう早め早めの意思確認を心掛けている。また、本人と家族の意向が一致しない場合は、医師と繋ぎ専門家の意見を聞いて貰う様にしている。医師は夫婦2人で常に相談ができる体制をとってくれ、利用者、職員、家族それぞれにとって安心感がある。また、職員への研修やケアも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会で緊急時の対応について話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	家人さん、職員が共に避難出来るよう避難訓練を行っている。 よりスムーズに避難出来るようシュミレーションをして訓練をしている。花火大会時に夜間の訓練も実施した。	昨年の目標達成計画に基づき、実際に夜間訓練を実施した。車で車道への通路を塞ぎ避難者を車内に留める等対策を講じた。地元入所者家族の協力承諾も得、具体案を検討している。災害時の避難は利用者状況を鑑み、施設で待機する為備蓄を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人研修やミーティングの中で定期的に取り上げ、言葉のかけ方や声のトーンなどの指導をしている。リハビリパンツ、パット等は他の人に見えない様に配慮し、トイレの声掛けも他の家人さんに気づかれないような言葉がけにしている。	研修やミーティングで常々、「利用者は人生の先輩」と頭に据えての接遇を指導し心掛けている。職員間のため口や馴れ合いが利用者への態度に出るとして、会社としてため口を禁止し「親しさと馴れ馴れしさ」の線引きを重んじている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家人さんとのコミュニケーションを通じて思いや希望、要望を汲み取れるようにしている。又、話しやすい環境作りに努めている。一対一の時間を取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、家人さんの状態に配慮しながら思いを尊重し、一人一人のペース、リズムで生活してもらえよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後、ホールへ来てからも整髪したり居室で化粧をしてからホールに来てもらったり、好きな洋服を選んでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているがパンの日にご飯が良い人には米飯を用意している。スタッフと一緒に食事の準備やテーブルを拭き、またコーヒーやココアをコップに注い具など役割りとしてして共同作業をしてもらっている。	理念目標「元気に暮らす」を実践する為、普段できなかった人にもお願いしたり励ましたりすることで、自分の役割として職員と一緒に準備や片づけをする人が増え、食事準備から後片付けの過程を通して、職員と歓談する時間も増え、活気ある食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに家人さんの食事量をチェックしている。特に食事量や水分量の配慮の必要な家人さんには個別に記入し確認するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをしてもらうよう声かけをしている。特に介助が必要な家人さんにはスタッフが付き添い見守りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮しながら声かけをし誘導が必要な家人さんは誘導している。トイレにて自然な排泄が出来るよう介助している。排泄チェック表からリズムを把握し昼夜を通しトイレ誘導することでハビリアパンツから布パンツへ移行出来た家人さんもいる。	生活リハビリで先回りしない介助を心掛けることで、トイレ動作や立位維持等自分でできる事が増えてきた。夜失禁のある人には、夜も介助対応することで、去年から今年にかけて数人の人がリハパンから布パンツに移行できた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな家人さんには排泄状況に合わせて漢方のセンナ茶を飲んでもらっている。又、主治医と相談して内服調整をして排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は必ずスタッフが付き添いコミュニケーションを図る場ともなる。本人希望に沿って入浴している。シャワー浴のみ希望の人もいる。19時以降の希望もあり実施している。	好きな入浴剤を自分で選んでいる。柚子湯やしょうぶ湯のこともあり、殆どの人が入浴を心待ちにしている。毎日シャワー浴の人、2日に1回の人もあり、希望の時間帯や急な要求にも出来る限り答える努力をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家人さん一人一人の生活習慣に合わせて休憩や睡眠をしてもらっている。身体の不調や不眠等があれば、それらを考慮して休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬担当を決め管理している。服薬が変わったり、臨時薬については必ず申し送りし受診ファイル、申し送りノートにも記載し把握している。薬剤師からも薬についての説明はその都度受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事に加え手芸や制作物など家人さんのレベルに合わせて日々提供している。家人さん同士、競争心もあり張り合いになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や誕生日に外食したり、天気の良い日は近くのコンビニのイートインで飲食したり出来る限り外出の機会を設けている。又、テラスや玄関先へ出るだけでも外気に触れてもらっている。	花見や観光地でのお茶、また家族の協力を得て外食や買い物に出る人もいる。「外が好き」な人には、駐車場にベンチを置いておやつや日向ぼっこを楽しんで貰っている。看取り期近い人の意向を汲み、自宅に同行したり、帰宅願望の人と一緒に自宅付近をドライブしたりと、把握した戸外への希望に応える支援努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人持ちの現金は事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば手紙を出したり、電話で話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下など家人さんと一緒にモップ掛けをしたり、手すりを一緒に拭いてもらったりして清潔を保っている。季節ごとの飾り付けを一緒にして気分転換をしてもらって居心地良く過ごしてもらっている。	「元気に暮らす」の年目標の下、生活リハビリとしての清掃や手芸クラブを作り、季節毎に利用者と一緒に飾り物等を作り、飾りつけも楽しみながらより良い生活空間を共に作り上げている。また、ホールのソファースペースは、利用者の憩いの場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の家人さんの思いに合わせて一人でも仲のいい家人さん同志でもホールのソファや居室にて自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人さんにとって、居心地のいい環境になるよう家族とも相談し使い慣れた物や服を持ってきてもらっている。居室の壁には写真など飾っている。又、安全にも配慮して環境の見直しもしている。	一人ひとりの状態の変化の都度、家具の配置換えや手すり等の補助具を設置し、できるだけ自立し居心地がよく且つ安全な生活が送れるよう支援している。花好きな人が多く、家族に持ってきて貰った花の水やりも職員の支援の下自分で楽しんでる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立して安全な生活を送ってもらえるよう、その時々状態に合わせた配置や整備、手すりや平行棒などを設置している。		